

CODE 海外災害援助市民センター
2015 年度 事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト(ぶどう畑再生支援事業)
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	<p>① ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 537 世帯(2016 年 3 月時点)。</p> <p>② アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト パンジシール州の被災地の約 300 世帯。</p> <p>③ アフガニスタン・バタフシャン地震救援プロジェクト バタフシャン州、タハール州の約 100 世帯</p>
実施内容	<p>① ぶどう畑再生支援事業</p> <p>・これまでの経緯</p> <p>2003 年から上記 4 村でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への小規模融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 545 世帯が融資を受けた(2016 年 3 月末時点)。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。</p> <p>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、主要な市場であったパキスタンへの輸出が 2010 年頃から閉ざされ、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。</p> <p>2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」(熊本市)の関係者とつながり、ミールバチャコット産の有機干しぶどう(レーズン)を日本で商品化することとなった。2013 年 12 月に 20kg のレーズンの輸入を開始し、2014 年 3 月から 1 袋 100g の真空パックの販売を開始した。</p> <p>2015 年度は 20 kg を 4 回に分け、計 80 kg を輸入、販売してきた。レーズンの味に定評をいただき、規模はまだ小さいが、確実に販売実績を伸ばしてきている。2015 年 8 月より個別注文以外の委託販売も始まった。ケペスという東京でフェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社の岡本玲子さんが、毎月 30p～50p の定期購入をしてくれている。その他、「れーずんの会」、レーズンのイベント販売などを通じてアフガニスタンの状況を知ってもらう機会を複数設けてきた。2016 年 3 月までの輸入、販売の総計 340kg である。</p> <p style="text-align: center;">* イベントでのレーズン販売</p> <p>6/2 地域コープ委員会学習会での講演で販売(吉椿)</p> <p>7/11 コープこうべ「平和のつどい」で販売(上野)</p>

- 11/8 荒田エコフェスタで販売(細川)
- 12/26 ONE WORLD FESTIVAL for Youth で販売(上野)
- 1/23 AWEF、ネパール地震応援イベントで販売(上野)
- 2/14 コープ兵庫まつりで販売
- 3/6 ユニセフのつどいで販売(上野)

「れーずんの会」を年2回開催し、レーズンを使った食を味わいながら、アフガニスタンの状況を発信してきた。今後、この「レーズンの会」は、食と国際協力の一つのイベントという形で「2-4」に統合する。

以下、これまでのれーずんの会の開催状況

- 第1回 れーずんの会(2014年3月28日 参加者18名)
- 第2回 れーずんの会(2014年4月25日 参加者19名)
- 第3回 れーずんの会(2014年10月16日 参加者11名)
- 第4回 れーずんの会(2015年4月16日 参加者9名)
- 第5回 れーずんの会(2015年11月19日 参加者8名)

② アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト

2015年2月24日にアフガニスタン北東部で雪崩災害が発生し、ラフマンさんをカウンターパートに救援事業を立ち上げた。現在も被災地の情報が十分に入っていない状況はあるが、家屋の倒壊や新たな雪崩の危険性から被災地では約500家族が今後、他の土地に移住しなければいけない状況にある。

ラフマンさんはこれまでに被災者が住居を確保するまでの間の支援として、食糧支援や防災に関するワークショップを実施してきた。今後、クワの実の栽培を使った農家の再建プロジェクトを計画している。これまでにCODEに寄せられた19万3800円の寄付金を使って新年度の5月頃にクワの実を約40本購入する。

③ アフガニスタン・バタフシャン地震救援プロジェクト(終了)

2015年10月26日にパキスタン・アフガニスタン国境エリアで発生したM7.5の地震により、死者390名(パキスタン:272名、アフガニスタン:115名、インド3名)、負傷者2400名以上、被害家屋17600棟以上の被害を出した。

CODEは地震直後よりラフマンさんにコンタクトを取り、情報収集を行ってきた。被災地は紛争地でもあり、支援の厳しい状態であるが、ラフマンさんからの報告では、紛争の小康状態である寒期の3月をねらって、バタフシャン州Jurm地区の65世帯、タハール州Taloqun地区の35世帯の計100世帯を対象に1日、5つのパンなどの食糧を3月の1か月間提供した。これまでにCODEに寄せられた寄付金は45万3600円である。ちなみに、その多くは長期的に支援していただいている「ぶどうオーナー」の方々である。

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民
実施内容	<p>2008年の四川大地震直後からCODEはスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジアの多国籍のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添って来た。</p> <p>その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011年6月に着工、9月に完成した。</p> <p>センターは村の中心部4組の森に囲まれた場所で、駐車スペースなど総面積約1000平米、築面積約380平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築され、中国の伝統木造様式である三合院(3棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン)で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。住センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持つ。</p> <p>2011年3月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金2万8000元(約36万円)が届いた。</p> <p>2011年9月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。</p> <p>その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽(中国式アグリツーリズム)」として活用している。</p> <p>2012年3月には、金沢大学との協働で光明村の被災者3名を日本に招き、能登半島地震(2007)や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。</p> <p>2013年2月にはCODE10周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震におけるCODEとの活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。</p> <p>2013年9月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史(中国社会科学院)を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約20名ほどの観光客が来ていて、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきている。</p> <p>2014年より民間レベルによる今後の日中災害救援における連携を深めるために日中のNGOやボランティアが共に学び合う場を企画し、2015年3月、6月に日中NGO・ボランティア研修交流事業(全2回)を実施した。3月の第1回は日本の学生6名が四川の被災地を訪問し、光明村で桜の木を絆の象徴として記念植樹した。また、6月には第2回として四川のNGO関係者を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越を訪問、視察し、専門家に</p>

<p>よる講義を受け、今後の災害救援において連携を深める事ができた。</p> <p>2015 年度の動き</p> <p>6/12～21 第 2 回日中 NGO ボランティア研修交流</p> <p>招聘者:高 圭滋さん(四川尚明公益発展研究センター主任)</p> <p>張 国遠さん(NGO 備災センター事務局長)</p> <p>羅 丹さん (成都根与芽環境文化交流センター主任)</p> <p>講 師:室崎副代表、山添理事、村井理事</p> <p>参加スタッフ:吉椿、上野、頼政、細川</p> <p>参加者:35 名(のべ 105 名)</p> <p>7/12 第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の報告会</p> <p>場 所:こうべまちづくり会館</p> <p>報告者:第 1 回事業で四川の被災地を訪問した学生 6 名</p> <p>参加人数:23 名</p> <p>12/20～27 四川地震第 26 次派遣(吉椿)</p>
--

事業名	1-(3)ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	<p>① CODE 海外研究員・クワウテモックさんの派遣(2010 年度～2011 年度)</p> <p>地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワウテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティ FM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。</p> <p>② ACSIS への支援(2010 年度～2012 年度)</p> <p>2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った(50 万円)。その後、AC SIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロフィナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011 年 1 月、約 128 万円(約 15,200 ドル)を送金し、40 人の女性に 100～500 米ドルが融資された。2012 年 8 月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の 7 割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行</p>

われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となる状況もあった。

③ 日本ハイチ協会」拠点支援(2013 年度～2015 年度)

同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル(年間 5000 ドル。約 130 万円)を送金した。現在、文化交流など各種イベントが行われている。2015 年末で日本ハイチ協会は、運営不振のため事務所を移転した。

④ シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい(2012 年度)

2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。

⑤ 「GEDDH」農業技術学校支援(2012 年度～)

ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会)と 2010 年に出会い、シスターの設立した NGO「GEDDH」の農業を支援する話が当初から出ていたものの、2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。しかし、2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校(ETAL)の建設を支援することが決定した。GEDDH には学校運営の経験が無いことから、2013 年 5 月現地や海外の関係者を含む顧問会(※)が設立され、この顧問会を ETAL の運営組織とすることが決まった。

2013 年 7 月に予算約 900～1000 万円で着工したが、8 月に土地の契約や顧問会内での役割分担をめぐる議論が生じ、一時中断となった。12 月、協定が再度まとめられ、建設再開の目処が立った。ETAL 名義での銀行口座が開設できしだい送金し、再着工する。シスター須藤の協力でするハイチ日本大使館からの備品協力支援は次年度に持ち越すことになった。

その後、シスター須藤や Bourget 氏(カナダの農業専門家)、在ハイチ日本大使館の方などの協力により両者の調整を行い、2013 年 12 月に新たな契約書が交わされ、ようやく建設が再開される目途が立ち、顧問会の一人であるカナダの Sylvio さんが、ハイチで再開に向けた調整を行ってくれたので、その詳細な報告を受け、2 度目の送金を行った。

2014 年 9 月にはシスター須藤を神戸にお招きし、講演会を行い 80 名の方にお越しいただいた。これによりハイチの現状のアピールする事が出来、参加費やカンパなどの寄付(約 10 万円)などもあった。その後もシスター須藤の聖心女学院での講演料などを寄付していただいた。2015 年 3 月にも毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救済金」としてハイチ支援に 40 万円の寄付をいただいた。

その後 2014 年 9 月に 3 度目の送金を行い、2016 年 3 月現在、学校は完成し、5 月中旬には開校式を行う予定である。一方で 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職

業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。

2015 年度末の 3 月に災害看護支援機構(DNSO)の視察に同行して、農業技術学校の進捗を確認する予定であったが、2 月頃から現地の大統領選に伴うデモ活動によって治安が著しく悪化し、渡航が厳しい状況となった。また、3 月に中南米でデカ熱の感染が流行し、ハイチで感染者が出たことにより、DNSO と相談の結果、ハイチ訪問を見合わせる事となった。

※顧問会メンバー

- Mr. Sylvio Bourget カナダ人で、ケベック州在住。農業・植林の専門家で、GEDDH 設立時(2005 年頃)から毎年 1 回ハイチに通い、農業を教えている。シスターとは修道会のつながりによる知り合い。
- Mr. Jean-Claude Leferve GEDDH 事務局長。2 月のシンポジウムに来日された方。
- Mr. Joseph Ustache Estalien GEDDH の中核メンバーで、農業の実務に最も詳しい方。JICA の研修で神戸にも来たことがある。
- Mr. Pere Gabriel Blot カトリックの司祭。ドイツの Calitas によって建設された技術専門学校事務局長。この学校には 6 部門の技術分野(建築、木工、配管、大工、ブリキ工、太陽光発電)があるが農業部門はない。大学ではないが、上級の学校とのこと。教師の給与は Calitas が 1 年間支援するが、その後は自分たちで賄わなくてはならないため、学校で生産したものを売って備えているという。
- Mr. Frere Olizar 聖テレシア会の修道士で、同修道会の総会計。学校の校長もしており学校の管理に慣れている。
- CODE 芹田代表

※Sylvio 氏と CODE は遠隔のため、実務よりもアドバイザー的な関わりになる。

《参考》CODE 訪問歴

クワウテモックさん

第一次：2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日

第二次：2010 年 3 月 30 日～5 月 15 日

第三次：2010 年 6 月 17 日～9 月 5 日

第四次：2010 年 10 月 1 日～12 月 20 日

第五次：2011 年 1 月 9 日～3 月 31 日

2010 年 8-9 月：野崎理事

第六次：2012 年 8 月：芹田代表、岡本

第七次：2013 年 5 月：芹田代表、吉椿事務局長

※2013 年 6 月～7 月には、災害看護支援機構のアテンドとして吉椿事務局長が同行した。

その他

2013/2/4 シスター須藤が事務所を訪問

2014/9/23 シスター須藤の講演会を主催(あすつてぷ神戸 参加人数 80 名)

	2014/10/28 シスター須藤の講演会をサポート(小林聖心女子学院)(吉椿)
	2015/3 毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に寄付(40万円)をいただいた。
	2015/4/27 シスター須藤と大瀧さん(大阪大学大学院生)と打合せ(吉椿)
	2016/1/18 災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿)

事業名	1-(4)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540万人、玉樹チベット族自治州人口 28万人、玉樹県 10万人
実施内容	<p>2008年の四川省地震以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」や四川省で共に活動したNGO、ボランティアを通して直後より被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を2度青海省に派遣し、同省玉樹で最大のNGOのひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group, SSG)」や中国のNGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。</p> <p>並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん(アラフマイアニ・フェイサル)とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで2011年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。</p> <p>2012年7月の第3次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、2013年4月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。</p> <p>2014年8月に吉椿が現地を再訪し、ヤク銀行プロジェクトやヤクの飼育などの状況を視察した。カトゥ村の遊牧民家族に提供された37頭のヤクは、現在、53頭に増えた。</p> <p>2015年8月には、カウンターパートのイアニさんが現地を訪問し、母ヤクが8頭を出産したが、5頭が病気などで死亡したことで現在の約の総数は56頭であることを確認した。</p> <p>* 2015年8月 イアニさんがラブ村を訪問。</p>

事業名	1-(5)インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006年5月27日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落

受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援(同 4 月施工完了)。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代の差益をプールしてナマズの養殖などの事業向け小規模融資を実施するなどである。</p> <p>2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、CODE 正会員である神戸学院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に 2010、2011、2012 年はスタッフの岡本が、2013 年は村井理事が同行させていただき、情報収集を行った。</p> <p>2014 年以降は、神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE 正会員)たちが毎年、現地を訪問しており、同教授らが立ち上げた「ヤギ基金プロジェクト」を共有させていただいている。</p> <p>* 2015 年 9 月 神戸学院大学の江田先生がインドネシアを訪問。</p>

事業名	1-(6)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>CODE は、東日本大震災発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地 NGO 協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011 年 4 月 1 日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、金沢大学と連携し、2012 年 3 月末に中国四川省から被災者 3 名、カウンターパート 1 名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日には CODE 関係者などと交流会を行った。</p> <p>2012 年度(2013 年 2 月)には 10 周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。</p> <p>2013 年度は、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至っていない。CODE は今後も引き続き海外の被災地との交流を追及していく。</p>

事業名	1-(7)フィリピン台風被災地救援プロジェクト
実施日時	2013年11月8日～継続中
実施場所	フィリピン セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>2013年11月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan(現地名 Yolanda)は、フィリピン中部のレイテ、サマール、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODEは、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014年1月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC (Southern Partner Fair Trade Center)、FIDEC (Fisherfolk Development Center) や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。</p> <p>また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ (Association) を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO とより強固な信頼関係を築く。</p> <p>2014年2月に150万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の事務員と吉樫が3月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODEに集まった寄付金約300万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の6つのバラングイ(最小行政単位)にボートを提供し、3世帯の漁民で1つのボートを共有することになった。</p> <p>提供されるボートの種類、数、共有方法などは、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と各バラングイの住民組織 (Association) が協議しながら決めている。</p> <p>2014年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作が開始され、2015年2月にはボート2艘がバンタヤン島のバラングイ Pooc の被災漁民に提供され始め、これまでに Pooc、Ocoy、Aningan、Victoria、Polambato の5つの地域に7艘のボートを提供した。残りの5艘は、材料不足の影響もあり、時間がかかっているが、まもなく提供が完了する予定である。</p> <p>* 2015年度の動き</p> <p>6/1 北陸学院大学、田中先生とフィリピン JICA 事業の打ち合わせ(吉樫、上野)</p> <p>6/30 JOCV の方とフィリピンの打ち合わせ(吉樫、上野)</p> <p>7月 JICA フィリピン、NGO ダイレクトリ-2015に掲載(2016年1月に完成)(吉樫)</p> <p>10/3 関西国際交流団体協議会・第1回フィリピン活動 NGO の支援紹介(上野)</p> <p>11/27 北陸学院大学、田中先生とフィリピン JICA 事業の打合せ(吉樫)</p>

事業名	1-(8) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015年4月25日～継続中

実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者 約 3500 人
実施内容	<p>●地震発生からの経緯</p> <p>ネパールでは、81年ぶりに大規模な地震(M7.8)に襲われた。ネパール全75郡のうち39郡が被災し、うち29郡が大きな被害を受けた。被害の概要は以下のとおり。死者8650名、被害家屋約77万棟、被災者約810万人(国民の約3分の1)。</p> <p>CODEは元スタッフ、斉藤容子さんや故黒田裕子理事の団体の元ボランティアの井上想さん、神戸在住のネパール人、ラクパ・シェルパさんなどのつながりを通じてネパールにスタッフ2名(吉椿、上野)を派遣し、調査を行った。この派遣によってネパールの伝統建築家、篤農家、日本人医師、山岳民族シェルパ族のコミュニティなどとの関係を築いた。</p> <p>その後、雨期対策としてラクパさんの故郷のグデル村でテントシートを配る「CODE3000プロジェクト」を行った。その後、この村は、アクセスが悪く支援が届いていないことからCODEは石、木、竹、泥などの地元の資材を使った耐震住宅再建を行い、地元の大工、石工たちがモデルハウス建設を通して耐震技術を学ぶ「耐震住宅再建プロジェクト」を決定した。</p> <p>*耐震住宅再建プロジェクト</p> <p>2015年末より耐震住宅再建プロジェクトが本格始動した。2015年末から京都建築専門学校(京大)の学生、山本耕資さんを派遣し、日本とネパールの大工の技術交流を行った。また、2016年1月よりKhwopa工科大学の専門家2名を派遣し、現地の大工、石工たちに耐震の指導を行った。</p> <p>3月末には、モデルハウスの建設が完成する。一般住宅の再建も同時に開始しており、大工・石工を4チームに分け、雨期の始まる6月までに26軒の一般住宅の再建を完了する予定。</p> <p>*2015年度の主な動き</p> <p>4/25 ネパール地震発生</p> <p>4/26 救援活動開始</p> <p>5/2～3 インフォラータ神戸で募金活動(細川、吉椿、上野、頼政)</p> <p>5/3～14 ネパール地震救援第1次派遣(吉椿、上野)</p> <p>5/14 毎日新聞取材(吉椿、上野)</p> <p>人と防災未来センター、兵庫県災害医療センター ネパール地震報告会に参加(頼政)</p> <p>5/15 朝日新聞、神戸新聞取材(吉椿、上野)</p> <p>5/16 小倉清子さんネパール地震報告会(上野)</p> <p>5/18 NHK取材(吉椿)</p> <p>5/21 日本基督教団兵庫教区の方のヒアリング(吉椿、上野)</p> <p>サンテレビ取材</p> <p>5/25 サンテレビスタジオ出演(吉椿)</p> <p>5/26 ネパールの青年海外協力隊員からのヒアリング(村井、吉椿、上野)</p> <p>5/29 NVNADのネパール地震報告会で報告(吉椿、上野)</p>

6/1 神戸こども専門学院でネパール地震報告会(吉椿)
CODE ネパール地震支援活動報告会(吉椿)

6/3 竹内泰先生(東北工業大学)へのヒアリング(吉椿)

6/4 人と防災未来センターネパール報告会に参加(頼政、上野)

6/6 PHD 協会ネパール地震報告会に参加(上野)

6/8 関西学院大学復興制度研究所松田曜子さんヒアリング(吉椿、上野)

6/9 NHK 撮影(村井理事、吉椿、上野、ラクパさん)

6/17 21世紀研究機構「ネパール地震報告会 森伸一郎教授」に参加(村井理事)

6/19 榎戸健次郎ドクターネパール地震救援活動報告会に参加(村井理事)

6/24 神戸市立保育園連盟のネパール地震寄付の贈呈式(吉椿)

6/26 橘高校で講義(上野)

7/1 関西学院大学復興制度研究所「ネパール地震報告会」で報告(吉椿)

7/8 兵庫県立大学ネパール地震調査に向けた打合せ(吉椿)

7/13 NHK 取材

7/15 ラクパさん CODE Letter 記事インタビュー(吉椿)

7/22 ネパール支援意見交換会(村井理事、吉椿、上野、ラクパ)

8/6 ~14 ネパール地震救援第2次派遣(吉椿、上野)

8/26~27 関西学院大学災害復興制度研究所、岡田先生と智頭町視察(吉椿)

9/17 第15回食と国際協力「ヒマラヤの民シェルパ」を開催(ラクパシェルパさん)

9/24 舞子高校でNHK撮影(吉椿)

10/8 兵庫県立大学ネパール地震報告会に参加(吉椿)

11/4 「夢広の会」との打ち合わせ(吉椿、上野)

11/10 パント先生(クワパエンジニアリング大学)との打ち合わせ(吉椿、上野)

11/13 建築家魚谷さん、山本さんとの打ち合わせ(吉椿)

11/17~23 ネパール地震救援第3次派遣(上野)

12/3 コープこうべ、吉田さんとのネパール視察の打ち合わせ(吉椿、上野)

12/18~23 コープこうべネパール視察(本田組合長、吉田さん)

12/18 朝日新聞取材(吉椿)

12/23~1/16 山本さん(京都建築専門学校)をネパールに派遣

1/4~1/16 ネパール地震救援第4次派遣(上野)

*グデル村までの徒歩2日間完走第1号

1/8 JICA ネパール、NGO ハンドブック2015に掲載(吉椿)

1/20 国際防災・人道支援フォーラム2016
「ネパールにおける Build Back Better の取り組みと未来への展望」に参加(吉椿)

1/23 AWEF、ネパール地震応援イベントでブース出展(上野)

1/23~2/10 ネパール地震救援第5次派遣(吉椿)

2/13 コープこうべネパール地震報告会で報告(吉椿、上野)

2/29 日本基督教団兵庫教区のネパール地震報告会に参加(上野)

3/7 金沢ネパール地震報告会(石川ネパール協会、北陸学院大学主催)で講演(吉椿)
文科省科研費「ネパール地震調査報告会(東京大学)」に参加(村井理事)

	<p>3/11 関西学院大学災害復興制度研究所の岡田教授、野呂教授と打ち合わせ(吉椿)</p> <p>3/14 NHK 総合「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演、放送(吉椿) * 募金キャンペーンでは、放送終了後、約 584 万円(252 件)の寄付が集まった。</p> <p>3/22 ラジオ関西「コープスコープ」の収録(ラクパ、吉椿) 災害看護支援機構と保健医療支援の打ち合わせ(吉椿)</p> <p>3/24 夢広の会との打ち合わせ(村井理事、吉椿、上野)</p> <p>3/28 (株)アルパックとの意見交換(村井理事、吉椿) ラジオ関西「コープスコープ」放送</p>
--	--

その他:

事業名	1-(9) 台湾南部地震 <<新規>>
実施日時	2016 年 2 月 6 日
実施場所	台湾南部の台中市
受益対象者の範囲及び予定人数	台中市内安南地区の液状化被害のある被災者
実施内容	<p>台湾南部の高雄を震源として、M6.6 の地震が発生した。台南市では 9 棟が全壊し、死者 117 人、負傷者 551 人の被害を出した。死者のほとんどは 1 棟のビルの倒壊によることから違法建築の問題も露呈した。</p> <p>CODE は、被害の状況、規模などから救援活動を見合わせたが、舞子高校などから CODE に託したいとの申し出を頂いたことから、被災地 NGO 協働センターに集まった寄付も併せて、15 万 2706 円を小林郁雄先生たちの「被災地市民交流会」を通じて現地で支援活動を行うコミュニティカレッジ「台南市社区大学研究発展学会」に送金した。</p>

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2013 年度より吉椿雅道を事務局長として内外への発信、および事務局体制の充実化を図ってきた。スタッフの上野智彦(26 歳)は、関西 NGO 協議会等の勉強会に積極的に参加し、フィリピンやネパールの被災地の現場経験を経て、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。現在は、主に未来基金運営を中心に活動している。</p> <p>2015 年度は、常時 2 名の大学生のボランティアに協力してもらい、食と国際協力や英語の翻訳などを行ってもらったが、2 名とも卒業したので、今後新たなボランティアさんを探し、事務局のサポートを行ってもらう。</p> <p>また、1 月、2 月の計 5 回、参加したファンドレイジング研修(関西 NGO 協議会主催)を受講した事により、3 月から事務局内の過去のデータの整理に取り組んでいる。そのデータを分析し、会員、寄付者の拡大などの今後の事務局運営に活かしていく。</p>

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>2015年度は、村井理事を講師に計2回(月に1回)のCODE 寺子屋を開催し、スタッフやボランティアなどの若い人たちがCODE の理念や活動を学ぶ場を提供した。</p> <p>* CODE 寺子屋「NGO ってなんだろう？」講師:村井理事</p> <p>第1回 2015年10月23日 参加者:9人</p> <p>第2回 2015年11月27日参加者:8人</p> <p>またCODE 未来基金の助成で、日中 NGO・ボランティア研修交流事業を2回実施し、15名の若者が災害復興やNGO について学ぶ機会を得た。*1-(2)と重掲</p>

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>月に一度開催している「食と国際協力」や日中 NGO・ボランティア研修交流事業などを通じて新たなつながりも生まれてきた。これをきっかけに CODE の関わる若いボランティアさんも徐々に増えてきた。2015年度は、事務局ボランティアが2名、翻訳ボランティア1名の方に協力していただいた。その他、災害発生時などは複数の翻訳ボランティアにご協力いただいている。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014年3月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらおうと同時に、その中からCODE に積極的に関わる若者を発掘していく。</p>

*これまで開催された内容は以下の通り。

- 第1回 れーずんの会 (CODE) (2014年3月28日) 参加人数:11名
- 第2回 れーずんの会 (村井理事) (2014年4月25日) 参加人数:15名
- 第3回 フィリピンからまなび(PEPUP 中山さん+吉椿)
(2014年5月15日) 参加人数:13名
- 第4回 インドネシアとつながる (JICA 兵庫デスク 中村さん+村井理事)
(2014年6月19日) 参加人数:15名
- 第5回 食から見る日本とアメリカ(ワールドユースジャパン学生+多田、上野)
(2014年7月15日) 参加人数:21名
- 第6回 青海省チベット高原から (吉椿) (2014年8月21日) 参加人数:11名
- 第7回 ハイチからのたより (シスター須藤+吉椿) (2014年9月24日)
参加人数:11名
- 第8回 れーずんの会 (村井理事、多田) (2014年10月16日) 参加人数:11名
- 第9回 イランってどんな国? (奥、ナヒド夫妻+CODE) (2014年11月20日)
参加人数:11名
- 第10回 台湾とのきずな(李勇昕さん) (2014年12月18日) 参加人数:9名
- 第11回 バングラデシュ~災害のスーパーマーケットと呼ばれる国
(人と防災未来センター 齊藤さん) (2015年2月19日) 参加人数:13名
- 第12回 中国四川の風土と食 (吉椿) (2015年3月19日) 参加人数:7名
- 第13回 れーずんの会(村井理事) (2015年4月16日) 参加人数:10名
- 第14回 カンボジアの子どもたち~アンコールの風~
(SVA カンボジア事務所 ソティア・ロアットさん) (2015年6月2日) 参加人数:15名
- 第15回 スリランカという国~インド洋の島国の生活~ 参加人数:11名
(人と防災未来センター 齊藤容子さん) (2015年8月20日)
- 第16回 ヒマラヤの民シェルパ~ネパール標高3000mの暮らし 参加人数:18名
(Royal Orchid Treks ラクパ・シェルパさん) (2015年9月17日)
- 第17回 イランってどんな国~イランの人たちと出会って~
(在神戸イラン人夫妻 奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリさん)
(2015年10月15日) 参加人数:11名
- 第18回 れーずんの会(村井理事) (2015年11月19日) 参加人数:8名
- 第19回 フィリピンの食と暮らし~セブ島の「食」から見えること~ 参加人数:9名
(神戸大学 PEPUP 坂元さん、CODE 上野) (2015年12月17日)
- 第20回 エルサルバドルってどこ?どんな国? 参加人数:12名
(人と防災未来センター 岸本くるみさん) (2016年2月18日)
- 第21回 台湾の寄付文化(李勇昕さん) (2016年3月17日) 参加人数:13名

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	これまでに「World Voice」として、災害後の情報を UNOCHA の「Relief web」を翻訳する事で積極的に発信してきた。2013 年のフィリピン台風の際は、全国から翻訳ボランティア・情報収集ボランティアの申し出があり、広く協力いただいた。現在もHPの英語訳などにボランティアの方の協力を得ている。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	下記の通り
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	約 40 名
実施内容	<p>① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣</p> <p>CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、8 年目となる 2015 年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱの講師派遣を下記の通り実施した。受講人数は約 40 名。</p> <p>《内容》</p> <p>9/29(火) 第1回 ガイダンス(村井理事)</p> <p>10/6(火) 第2回 阪神淡路大震災 20 年とボランティア(村井理事)</p> <p>10/13(火) 第3回 東日本大震災など国内災害とボランティア(村井理事)</p> <p>10/20(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事)</p> <p>10/27(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について (吉椿)</p> <p>11/10(火) 第6回 フィリピン台風から学ぶ(吉椿)</p> <p>11/17(火) 第7回 四川大地震と CODE プロジェクト(吉椿)</p> <p>11/24(火) 第8回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿)</p> <p>12/1(火) 第9回 アフガニスタンと開発援助 1(村井理事)</p> <p>12/8(火) 第10回 アフガニスタンと開発援助 2(村井理事)</p> <p>12/15(火) 第11回 東日本大震災とジェンダー(斉藤容子さん)</p> <p>12/22(火) 第12回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん)</p> <p>1/12(火) 第13回 農業と持続可能な社会(本野一郎さん)</p> <p>1/19(火) 第14回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>1/21(木) 第15回 まとめ(村井理事)</p>

	<p>その他の講義、シンポジウムなどにも講師として派遣した。</p> <p>7月11日 神戸学院大学社会貢献入門で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>昨年に続き、8月17日から21日まで 学生インターン3名を計5日間受け入れた。</p>
--	--

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》神戸女子大学《新規》
実施日時	下記の通り
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	約40名
実施内容	<p>神戸女子大学神戸国際教養学科で、以下のように村井理事が講師として授業を行った。</p> <p>4月17日 長期にわたる紛争後のアフガニスタンと開発援助について学ぶ。</p> <p>4月24日 震災後の自立支援とエンパワメントについて学ぶ。</p> <p>5月1日 震災復興と貧困からの脱出について学ぶ。</p> <p>5月8日 異文化理解(宗教からくる生活習慣の違い)と被災者支援について学ぶ。</p> <p>5月15日 阪神・淡路大震災から20年、ボランティア元年の意味</p>

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣</p> <p>9月3日 帝塚山学院大学集中講義(吉椿)</p> <p>1月13日 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p> <p>② NGO-JICA 協議会、および提言専門委員会への参加</p> <p>村井理事が提言専門委員として参加した。</p> <p>第1回 2015年10月2日</p> <p>第2回 2015年11月10日</p> <p>第3回 2016年1月19日</p> <p>第4回 2016年2月22日(欠席)</p> <p>③ その他</p>

事業名	4-(4) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>4月9日 関西 NGO 協議会実践的参加型コミュニティ開発手法ミニセミナー に参加(吉椿)</p> <p>4月11日 関西 NGO 協議会 再生計画説明・意見交換会に参加(村井理事、上野)</p> <p>5月23日 関西 NGO 協議会総会に出席(吉椿、上野)</p> <p>8月25日 JICA 草の根技術協力事業(新支援型)の説明会に参加(吉椿)</p> <p>10月14日 ワンワールドフェスティバル for Youth 高校生取材(吉椿)</p> <p>11月25日 「紛争解決と共生社会づくりのための参加型コミュニティ開発手法」 研修に参加(吉椿)</p> <p>12月26日 ONE WORLD FESTIVAL for Youth にブース出展(上野)</p> <p>1月14日、15日 2015年度地域提案型 NGO 組織力アップ！研修 「ファンドレイジングの方法と実践」に参加(吉椿、頼政)</p> <p>2月12日 かんさいCSネットワークフォーラム に参加(上野)</p> <p>2月25日、26日 2015年度地域提案型 NGO 組織力アップ！研修 「ファンドレイジングの方法と実践」に参加(吉椿、頼政、上野)</p> <p>3月10日 ファンドレイジング研修最終コンサルテーションに参加(吉椿、頼政、上野)</p> <p>② TELL-NET フォーラム 2015 への参加</p> <p>TELL-NET フォーラムが 2015 年 3 月仙台での国連防災世界会議の場で開催された(CODE は欠席)が、2015 年度は主な活動はなかった。</p> <p>③ コープこうべとの連携</p> <p>6月2日 地域コープ委員会学習会で講演(吉椿)</p> <p>6月10日 コープこうべ第95期通常総代会に出席(吉椿)</p> <p>6月13日 第2回日中 NGO・ボランティア研修交流事業で コープこうべ食品検査センター視察と講義(山添理事)</p> <p>7月5日 コープこうべ名誉理事高村勲さん追悼展に出席(芹田代表理事)</p> <p>7月11日 コープこうべ「平和のつどい」でレーズン販売(上野)</p> <p>11月3日 コープこうべ第3地区ボランティア交流会でパネル展示</p> <p>12月3日 コープこうべ、吉田さんとのネパール視察の打ち合わせ(吉椿、上野)</p> <p>12月18～23日 コープこうべネパール視察(本田組合長、吉田さん)</p> <p>2月13日 コープこうべネパール地震報告会で報告(吉椿、上野)</p> <p>2月14日 コープ兵庫まつりでレーズン販売</p> <p>3月22日 ラジオ関西「コープスコープ」の収録(ラクパ、吉椿)</p>

	<p>3月28日 ラジオ関西「コープスコープ」放送</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク CODE の活動を定期的に支えてくれる若者のグループをつくることを目指し、ネットワークを広げてきた。特に、フィリピンの救援プロジェクトをきっかけに、ワカモノヂカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、神戸市外国語大学ボランティアコーナー、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、などの団体との関係を深めてきた。</p> <p>6月30日 アイセック神戸大学委員会送り出し事務局の面談(吉椿) 9月6日 ワカモノヂカラプロジェクト第6回学生未来フォーラムに参加(上野) 12月9日 アイセック神戸大学委員会送り出し事務局との打ち合わせ(吉椿)</p> <p>⑤ その他 4月18日 国際開発学会に参加(村井理事) 4月24日 JOCA、NGO インタンプログラム説明会に参加(吉椿) 5月20日 21世紀研究機構講義「災害復興と地方創生」に参加(吉椿) 5月19、20日 JICA 関西 PCM 研修に参加(上野) 6月25日 JICA 関西と在神戸の NGO との懇親会(吉椿) 8月25日 JICA 草の根技術協力事業(新支援型)の説明会に参加(吉椿) 8月28日 「黒田裕子さん追悼フォーラム実行委員会」に出席(村井理事) 10月3日 関西国際交流団体協議会・第1回フィリピン活動 NGO の支援紹介(上野) 11月20日 神戸市青少年会館の使用説明会に参加(吉椿) 11月21日 「黒田裕子さん追悼フォーラム」に出席(村井理事、細川) 1月20日 国際防災・人道支援フォーラム 2016「ネパールにおける Build Back Better の取り組みと未来への展望」に参加(吉椿) 2月10日 JICA 草の根技術協力事業マネジメント説明会に参加(上野) 3月8日 世界宗教者平和会議平和大学講座に参加(吉椿)</p>
--	---

事業名	4-(5) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGOネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築いてきた。引き続き本ネットワークとの連携を深め、防災や今後の災害救援に活かしていく。</p> <p>② 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「四川尚明公益発展研究センター」、「NGO 備災センター」、「壹基金」などとの連携を、2015年3月に日中NGO・</p>

	<p>ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。</p> <p>③ 2015年4月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。また耐震住宅再建プロジェクトを通じて耐震を学んだ地元の大工・石工との関係を構築してきた。</p>
--	---

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>今年度の CODE 寺子屋は、芹田代表理事、室崎副代表理事、松本理事の 3 名を講師に「NGO の根っこにあるもの～CODE の 20 年を振り返って～」をテーマに講義していただいた。開催状況は以下の通り。</p> <p>第 1 回 「NGO は誰を代表するのか？」 講師：芹田健太郎 CODE 代表理事（2015 年 12 月 11 日） 参加人数：15 人</p> <p>第 2 回 「市民社会は 20 年どう変化してきたか？～市民と地域、政治を考える～」 講師：松本誠 CODE 理事（2016 年 2 月 12 日） 参加人数：12 人</p> <p>第 3 回 「NGO が災害支援をする意義は？」 講師：室崎益輝 CODE 理事（2016 年 3 月 11 日） 参加人数：22 人</p>

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>現在の会員の状況：</p> <p>正会員 :24(団体 3、個人 21)</p> <p>賛助会員：96(団体 3、個人 93、うち新規 25) 計：120名・団体（*2014年度は92名）</p> <p>2016年2月、3月に参加したファンディング研修(主催：関西 NGO 協議会)を受けて、現在、事務局で会員、寄付者の増加をはかるために、過去の会員、寄付者の名簿の整理、分析を行っている。</p> <p>また、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」(3/14 放送)を見た方々から、寄付が 252 件、584 万 8272 円(うち未来基金 143 万円)(5 月末時点)あり、そのうち賛助会員になった</p>

	<p>ケースが 25 件あった。</p> <p>これを機に CODE の会員の継続や寄付者、支援者の獲得に向けて、丁寧なレスポンスや情報発信を行っていく。また同時に未来基金を知っていただき、寄付につなげる工夫も行う。</p> <p>具体的には、寄付および会費の振込方法として、マンスリー会員制度や自動引き落としなどのシステムを導入していく。</p> <p>2014 年度より gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金を開始し、約 22000 円/年の寄付があった。</p> <p>2015 年度はネパール地震で注目された事もあり、57,467 円/年の寄付があった。詳細は以下の通り。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">2015 年 4 月 2245 円</td> <td style="width: 50%;">10 月 6484 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 月 11855 円</td> <td>11 月 6270 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 月 5243 円</td> <td>12 月 3302 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 月 5114 円</td> <td>2016 年 1 月 3127 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 月 5068 円</td> <td>2 月 2048 円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 月 3697 円</td> <td>3 月 3014 円</td> <td style="text-align: right;">合計:57,467 円</td> </tr> </table> <p>また、2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で今年度も年間 15000 円の広告費を得た。</p> <p>2015 年度は、JICA フィリピンの NGO ディレクトリー2015 や JICA ネパールの NGO ハンドブックにも CODE の活動が掲載された。</p>	2015 年 4 月 2245 円	10 月 6484 円		5 月 11855 円	11 月 6270 円		6 月 5243 円	12 月 3302 円		7 月 5114 円	2016 年 1 月 3127 円		8 月 5068 円	2 月 2048 円		9 月 3697 円	3 月 3014 円	合計:57,467 円
2015 年 4 月 2245 円	10 月 6484 円																		
5 月 11855 円	11 月 6270 円																		
6 月 5243 円	12 月 3302 円																		
7 月 5114 円	2016 年 1 月 3127 円																		
8 月 5068 円	2 月 2048 円																		
9 月 3697 円	3 月 3014 円	合計:57,467 円																	

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。</p> <p>* ネパール地震支援活動報告会 * 1-(8)と重掲 日時:2015 年 6 月 1 日 18:30~20:30 場所:こうべまちづくり会館 報告者:吉椿雅道、上野智彦、ラクパ・シェルパさん(在神戸ネパール人) 参加人数:104 名</p> <p>* 第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業で講義 * 1-(2)と重掲 日 時:2015 年 6 月 13 日、14 日 場 所:コープこうべ 講 師:山添理事、村井理事、室崎副代表理事 参加者:32 名(2日間のべ)</p>

* 第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の報告会 * 1-(2)と重掲

日 時:2015 年 7 月 12 日(日)

場 所:こうべまちづくり会館

報告者:第 1 回事業で四川の被災地を訪問した学生 6 名

参加人数:23 名

② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。

4 月 17 日 関西学院大学で講義(吉椿)

神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事) * 4-(2)と重掲

4 月 24 日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)

5 月 1 日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)

5 月 8 日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)

5 月 15 日 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義(村井理事)

5 月 29 日 NVNAD ネパール地震報告会で報告(吉椿、上野)

6 月 1 日 神戸こども総合専門学院でネパール地震の報告(吉椿)

6 月 2 日 地域コープ委員会学習会で講演(吉椿) * 4-(4)と重掲

6 月 25 日 橘高校で講義(吉椿、上野)

7 月 1 日 関西学院大学復興制度研究所ネパール地震報告会(吉椿)

7 月 4 日 兵庫県立大学「災害と人と健康」で講義(吉椿)

7 月 11 日 神戸学院大学 社会貢献学入門で講義(吉椿) * 4-(1)と重掲

7 月 28 日 神戸大学 教養言論で講義(吉椿)

9 月 24 日 舞子高校で講義(吉椿)

9 月 29 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) * 4-(1)と重掲

10 月 6 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)

10 月 13 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)

10 月 20 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)

10 月 27 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)

11 月 10 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)

11 月 13 日 関西学院大学社会福祉学部社会起業論 C で講義(村井理事)

11 月 17 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)

11 月 24 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿)

11 月 21 日 大学コンソーシアム大阪セミナー「日本の国際協力-NGO 編」で講義(吉椿)

12 月 1 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)

12 月 8 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)

1 月 10 日 関西学院大学災害復興制度研究所「被災地交流集会」で登壇(吉椿)

1 月 13 日 龍谷大学「国際 NGO 論」で講義(吉椿) * 4-(3)と重掲

1 月 19 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(松本理事)

神戸工科高校で講義(上野)

1 月 20 日 神戸工科高校で講義(上野)

1月21日	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事)	
1月25日	神戸工科高校で講義(上野)	
1月26日	神戸工科高校で講義(上野)	
2月13日	コープこうべネパール地震報告会(吉椿、上野)	
3月7日	金沢ネパール地震報告会で講演(吉椿)	*1-(8)と重掲

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信	
実施日時	機関誌は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信	
実施場所	CODE 事務所	
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地約2000人／団体 インターネットは不特定多数	
実施内容	<p>機関誌「CODE レター」を2015年度は、4月(630通)、7月(715通)、1月(725通)の計3回発行した。</p> <p>2013年度よりインターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、ホームページも2014年度にリニューアルした。</p> <p>gooddo やソーシャルアクションリング、JICA の NGO ダイレクトリー掲載などの媒体を通じて CODE の活動を広報してきた。*6-(1)と重複</p> <p>2016年3月末時点、CODE の FB に「いいね」をした人は1125人(2015年3月末は648人)、掲載記事によっては7206人(NHK プロフェッショナル番宣)が記事を見ることが出来る環境にあった。1記事に対する「いいね」は通常20前後であったが、現在は、40前後であり、最大は「NHK プロフェッショナル」放送の番宣で112であった。</p>	

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備	
実施日時	随時	
実施場所	CODE 事務所	
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数	
実施内容	<p>2011年10月度理事会でCODE AID を立ち上げることを決定したが、2012年度になり認定NPO法人の取得には最低2年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。</p> <p>なお、理事候補は浅野壽夫氏(神戸学院大学教授)、大森保美氏(株式会社大森工業社長)、林晃史氏(弁護士)、芹田健太郎現CODE代表理事(神戸大学名誉教授)の4名、監事候補は安井一浩氏(公認会計士・神戸学院大学准教授)である。2013年度の総会および懇親会「CODEのタベ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014年の「CODEのタベ」にも大森氏にご参加いただいた。</p>	

事業名	7-(5) CODE 未来基金
実施日時	2014年12月10日～
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>これまでの CODE の事業で3年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額(約1000万円)の資金を活用して、2015年度4月より「CODE 未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第1回神戸宣言の採択の日である12月10日に承認された。</p> <p>また、2005年度から始まった CODE スタッフへの奨学金制度は、理事会の承認を経て未来基金の項目に統合した。今後、該当者がいれば、未来基金としてその都度、対応していく。</p> <p>●「CODE 未来基金」の概要(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旨:災害救援を主たる目的とする NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容:以下の3部門 <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ・・・将来、CODE など災害 NGO で働きたい若者が CODE で有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODE の支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。 3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。 ・基金の財源:CODE の過去のプロジェクト費と寄付金を活用する。 CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。里親制度のように顔の見える関係性を活かした共に育ち合う事業にもチャレンジする。 ・寄付について: * 一般寄付 個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円 * 未来基金サポーター 年会費:1,000 円 ・運営・選考:上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の4名の理事および外部選考委員2名によって審査が行われる。 選考委員:芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の4名と 西海恵都子(神戸新聞編集局報道部長)、宮本匠(兵庫県立大学)の2名の外部委員から構成される。

* モデル事業: 第 1 回、第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の参加学生への参加費の助成を行った。

* 第 1 号事業: 神戸大学生(アイセック神戸大学委員会)による「フィリピンでのフィールド研修」の申請案件が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て正式に採択された。実施は 2018 年 8 月の 1 週間を予定している。

●これまでの動きと現状

2014 年 5 月に菊池健さん(社会を動かす研究所、元パナソニック役員)にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名(上野、頼政)がグンゼ(株)の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その後も選考委員でもある山添、榛木、松田の 3 名の CODE 理事や企業、学生などの意見を踏まえ、未来基金のしくみ、運営、募集などの検討を重ねてきた。

●事業に関して

2015 年度後期の案件を公募し、4 回の事業説明会を行い、5 名の若者の参加があった。その結果、インターンシップ部門 1 件、フィールド研修部門 1 件の申請があったが、インターンシップの申請者から辞退の申し出があったことにより、2015 年後期は、フィールド研修部門 1 件の申請となった。3 月 30 日の選考委員会による審査の結果、採択された。詳細は以下の通り。

* フィリピンフィールド研修

プログラム名:「Sign ～学生に国際支援の新たな兆しを～」

期間:2016 年 8 月 17 日～25 日

場所:フィリピン・セブ島、バンタヤン島

申請者:宮津隆太(神戸大学経営学部 2 年生)

参加人数:4～5 名

概要:2013 年に発生した台風 Haiyan の復興支援として、CODE の漁業支援プロジェクトを行っているセブ島、バンタヤン島で被災漁民へのヒアリング、交流、漁業体験などを通じて NGO 活動や貧困などの見識を深めると同時に学生ならではの協力を模索する。

●寄付、サポーターの状況:

現在の寄付:58 万 9417 円(約 10 名、うちサポーター 3 名)

+50 万円(斉藤容子さんの奨学金返済)

+143 万円(5 月末時点 プロフェッショナル募金キャンペーン)

計:合計:251 万 9417 円

上記のように現状としては、寄付、寄付者、サポーターは若干名程度である。今後は戦略的に、寄付者、サポーターを募る方法、機会などを考え、実施していく。

* 2015 年度の動き

5月26日 未来基金に関してグンゼ株式会社を訪問(頼政、上野)

7月2日 CS 神戸を訪問し、運営に関する相談(頼政、上野)

9月28日 未来基金若者ミーティング(村井理事、細川、上野)

10月8日 未来基金についてのミーティング(山添理事、松田理事、村井理事、上野)

12月14日 CODE 未来基金説明会(村井理事、上野)

12月15日 神戸大学で CODE 未来基金説明会(上野)

12月21日 CODE 未来基金説明会(村井理事、上野)

12月23日 神戸学院大学で CODE 未来基金説明会(上野)

12月28日 CODE 未来基金募集締め切り

3月30日 未来基金最終選考会

(芹田代表、山添理事、榛木理事、松田理事、西海さん、宮本さん、上野)